

京都府の地震活動

平成 29 年（2017） 1 月

第 30 卷 第 1 号

京都地方気象台

目 次

震央分布図、概況、断面図	・・・ 1～2
【地震一口メモ】「京都府の地震活動」に掲載の図の見方について	・・・ 3

『京都府の地震活動』は、京都府及びその周辺の地震活動状況を解説するとともに、地震防災知識の普及に資するため、毎月刊行しています。

本誌に掲載した震源要素、震度データは、再調査された後、修正されることがあります。

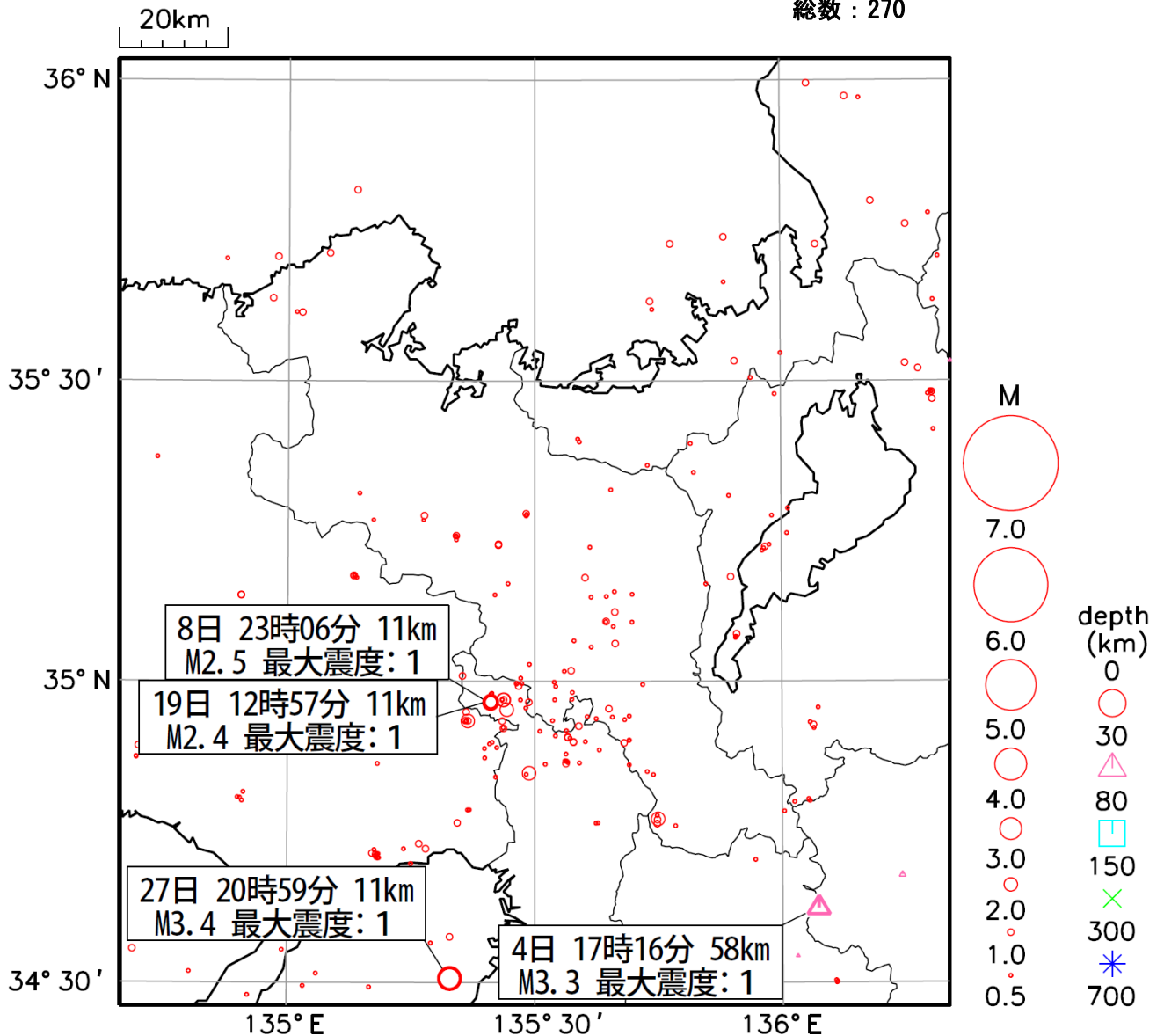
本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを基に作成しています。また、2016年熊本地震緊急観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを利用しています。

震度データは、気象庁の震度計の観測データに併せて地方公共団体及び国立研究開発法人防災科学技術研究所から提供されたものを掲載しています。

震央分布図（マグニチュード0.5以上、深さ0～700km）

2017 01 01 00:00 - 2017 01 31 24:00

総数：270



・震度1以上を観測した地震には、日時、マグニチュード (M) 及び京都府内で震度を観測した地震については、京都府内最大震度を付記。

概況

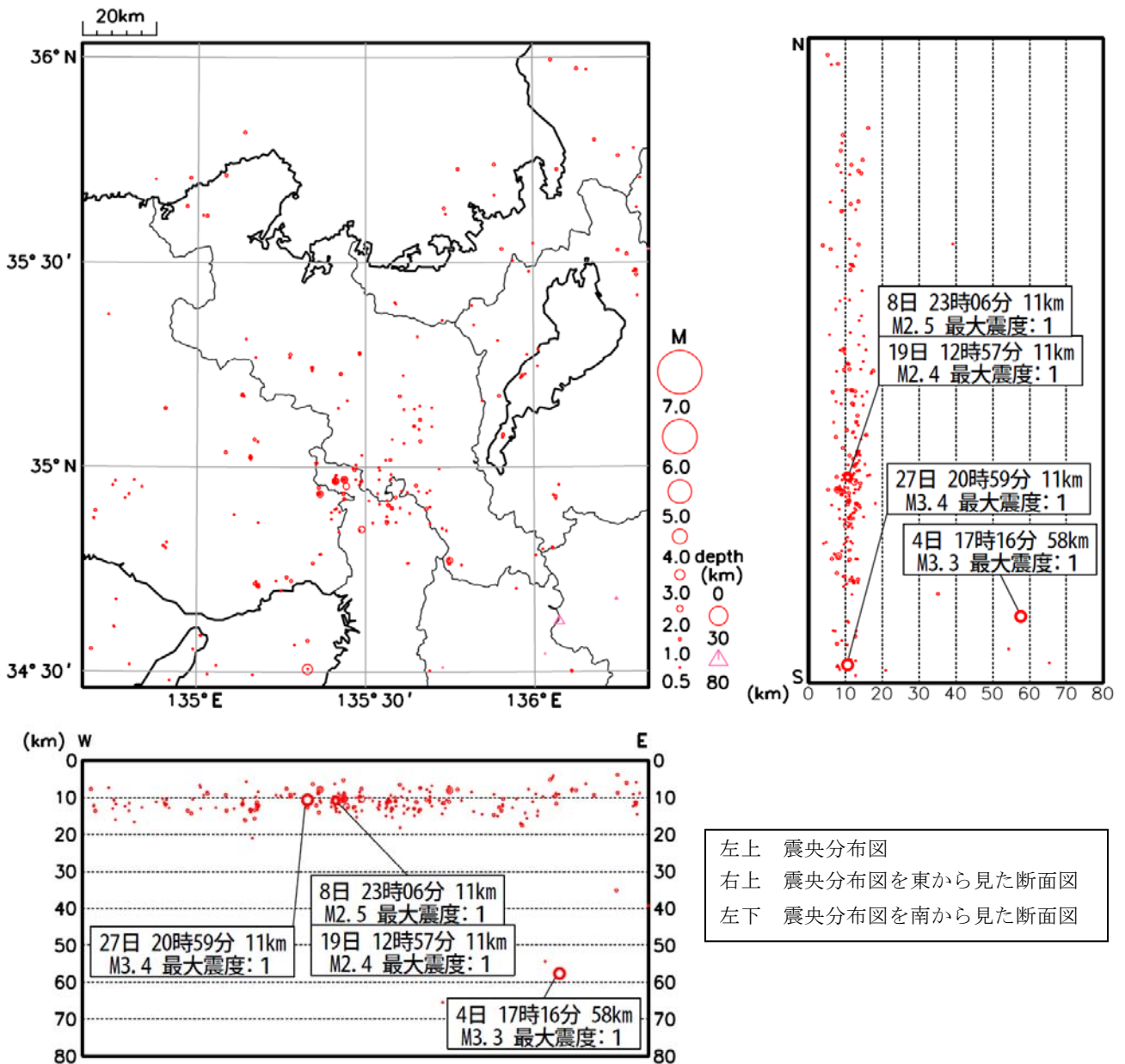
1月の震央分布図内で観測したマグニチュード2.0以上の地震は11回、震度1以上の揺れを観測した地震は4回でした（12月はそれぞれ 7回、1回）。

京都府内で震度1以上の揺れを観測した地震はありませんでした（12月は0回）。

震央分布図、断面図（マグニチュード0.5以上、深さ0～80km）

2017 01 01 00:00 - 2017 01 31 24:00

総数：270



深さ数 km～約 20km に分布している地震は陸側のプレート内で発生した地震（地殻内地震）、深さ約 30km～約 60km に分布している地震は、沈み込むフィリピン海プレート内の地震です。

【地震一口メモ】

「京都府の地震活動」に掲載の図の見方について

今回は、「京都府の地震活動」に掲載している「震央分布図」、「断面図」、「震度分布図」について説明します。

●震央分布図と断面図について（図1）

地下で地震が発生した場所を「震源」と言い、その真上の地表位置を「震央」と言います。震央分布図は、ある期間に発生した地震の震央をプロットしたものです。プロットするシンボルマークの大きさにより地震の規模（M：マグニチュード）を、シンボルマークの形・色により震源の深さを表現しています。また、断面図は震央分布図で表示している範囲の震源を鉛直断面に投影することで、震源の鉛直分布を表示します。断面図から、京都府および周辺で発生している地震の多くが、深さ20kmより浅い地震（陸域の浅い地震）ということが分かります。

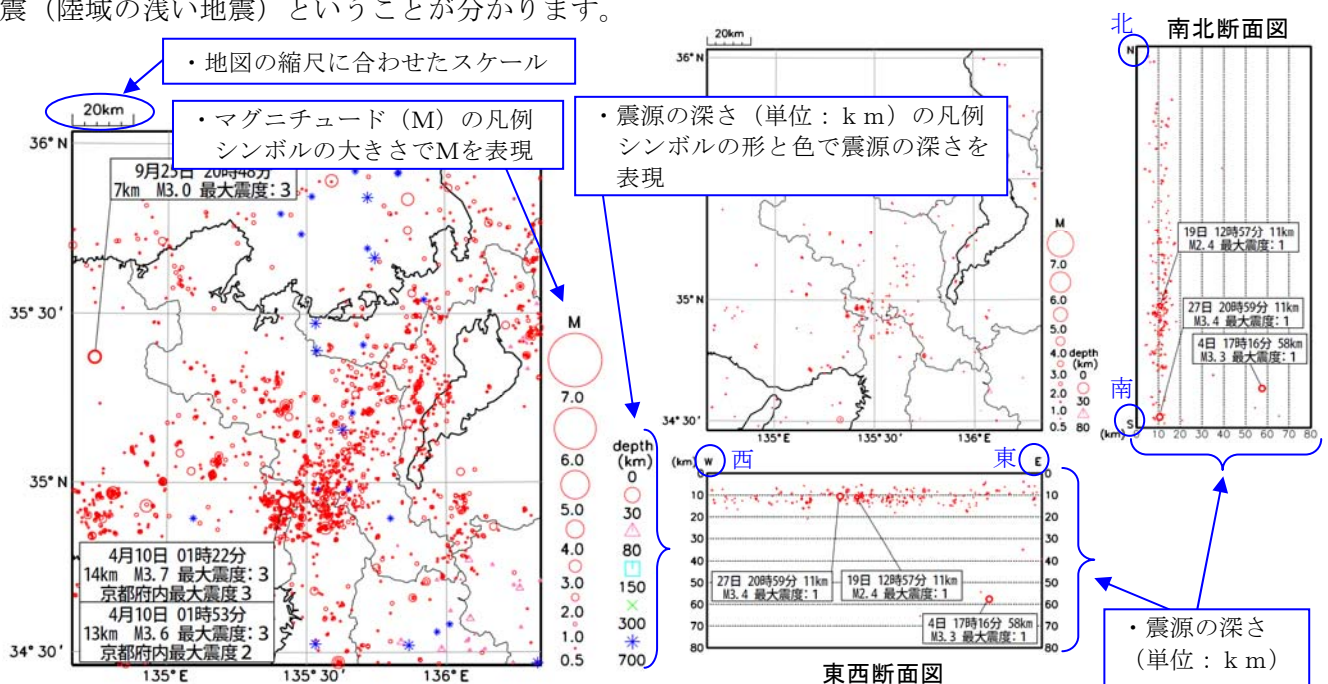


図1 震央分布図と断面図

●震度分布図について（図2）

震度計で観測した震度を地図上に記載した図を震度分布図と言います。気象庁の震度階級は「震度0」「震度1」「震度2」「震度3」「震度4」「震度5弱」「震度5強」「震度6弱」「震度6強」「震度7」の10階級となっています。震度分布図では、震度5弱を5-、5強を5+、6弱を6-、6強を6+で表現します。震度分布図には地域別、市町村別、観測点別の3種類があり、震度を観測した観測点の数により使い分け、分かりやすい図となるよう作成しています。

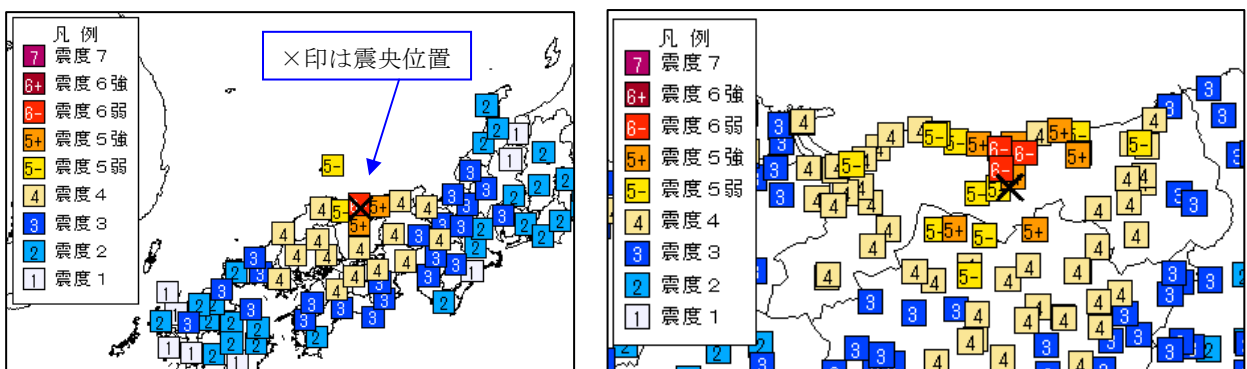


図2 震度分布図（2016年10月21日「鳥取県中部の地震」の例）
左：各地域の震度分布図、右：各観測点の震度分布図